

はかりて石を求むるになん大隈川のあ
なたなる山里より見いてたるを里人等を
かたらひも、人の手にからうして引き
つ金毘羅堂の地なるこそその碑に

並へて造り立たるそ老の思ひ出とみに

遂たる嬉しさに紙のはしにしるし

たれは年ころ親しかりし人々にも

告まいらせたく桜木にちりはめる時

は安政二乙卯五月軒のあやめの匂ひ

残れる日

我国や今に

むかしの田うえ唄

八十壽晴霞多代

吏隠以肅書 以爾